

アゼルバイジャン（2023 年度）

- ・ [国・地域別情報トップページへ](#)
- ・ [各国・地域情勢](#)
- ・ [在アゼルバイジャン日本国大使館](#)

1. 2021 年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2021 年度日本語教育機関調査結果

機関数	教師数	学習者数								
		合計	初等教育		中等教育		高等教育		その他教育機関	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
4	15	339	0	0.0%	145	42.8%	157	46.3%	37	10.9%

（注）2021 年度日本語教育機関調査は、2021 年 9 月～2022 年 6 月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

2000 年 9 月、バクー国立大学で日本語講座が新設され、同大学には 2001 年から JF により日本語専門家が派遣されていたが、2020 年に中断、2023 年に派遣が再開されている。現在、同大学はアゼルバイジャン共和国内における日本語教育普及の中心的な役割を担っている。

2009 年 9 月、教育大臣の発案から、3 つの中等教育機関において日本語正規授業が開始され、学習者数が大幅に増えた。また、2011 年 9 月よりアゼルバイジャン言語大学において、地域研究・国際関係学部外国語学科履修科目として日本語講座が開設され、日本語が専門的に学べる高等教育機関はこれで 2 つとなった。さらに、同大学では 2013 年より社会人向けの一般コースも開設された。

高等教育機関以外でも、日本文化やサブカルチャーに興味を持ち、日本語の学習を始めた若い世代の独習者

を中心に、「Yapon.az」という団体がサークル活動が行われている。現在は、独習者だけではなく、日本語講座を持つバクー国立大学、アゼルバイジャン言語大学の学生も参加するようになっている。アゼルバイジャン国内の大学生を対象とした日本語弁論大会などでは、「Yapon.az」所属の大学生が常に高い能力を発揮している。そのほか、バクー経済大学（ADA）においては学生有志による「さくらクラブ」が開設され、日本語を含む東アジアの文化や言語を楽しむイベントが定期的に催されている。

今後は能力の高い日本語指導者の需要が増えるとともに、国内における日本語教育の裾野が広がっていくことが期待される。

背景

1991年に独立後、混乱期を経て国内情勢が安定したことにより、1995年以降、日本を含め西側資本が流入した。これに伴い、日本に関する情報も増え、対日関心が高まった。

特徴

日本語教育が行われている大学や中等教育機関はバクー市内に集中している。パンデミック中（2020年）に開始したオンライン学習の影響によるものか、初学年齢の低下傾向が見られる。

最新動向

バクー国立大学主催で「バクー弁論大会」が毎年行われている。大会参加者はバクー国立大学、アゼルバイジャン言語大学の学生のみであったが、2016年より、大学で日本語を専攻していない大学生も参加できるようになった。2017年からは大学生以下の「子ども部門」が新設され、アゼルバイジャン国内の日本語学習者の多くが大会に参加できるようになっている。なお、受賞対象となるのは大学生部門のみ。大会優勝者はモスクワで行われる「モスクワ学生日本語弁論大会」に参加する権利を得るが、モスクワ大会でも、2016年度4位、2017年度3位と好成績を収めていた。しかし、2020年以降、モスクワ大会は中断したままとなっている。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育は実施されていない。

中等教育

2004年秋、バクー市内の中等教育機関1校（エリタル・ギムナジア）でバクー国立大学の学生が教師となって課外科目として日本語の講座が開始された。その後、2009年10月より、バクー市内3か所の中等教育機関（エリタル・ギムナジア、テレギ・リセ、第225番学校）が試験校となり、第二外国語の選択必須科目として正規授業が開始された。ただし、エリタル・ギムナジアでは2013年9月より、テレギ・リセでは2014年9月より機関の事情により休止しており、225番学校のみで日本語教育が実施されている。当地の初等・中等教育機関は1年生から11年生（6歳から17歳）までの一貫校であり、225番学校では日本語教育は、高等部に相当する8年生から11年生において実施されている。また、バクー以外では、イスマイリ県1番学校にて2013年1月よりオンラインで7年生、8年生及び11年生を対象に日本語教育が行われている。

高等教育

2017 年 10 月現在、主専攻として日本語が学べるのは、バクー国立大学、アゼルバイジャン言語大学の 2 大学であり、そのうちバクー国立大学のみ修士課程も開設している。

その他教育機関

- 日本語会話クラブ

2005 年よりバクー国立大学日本語講座がバクー日本人会及び日本大使館の協力を得て開始され、2012 年 10 月からはアゼルバイジャン言語大学日本語講座の学生も参加するようになった。月 1 回、大使館広報文化室で在留邦人と日本語学習者との会話の場を設けている。具体的には、身近なことから時事問題に至るまで毎月テーマを決めておき、邦人の人数に分かれて班を構成し、話し合っている。2024 年 1 月現在、毎回の参加人数は、学習者が 30～40 名程度、ボランティア邦人は 6～9 名程度となっており、主にバクーの主要教育機関からの参加者が多い。さらに、2023 年秋ごろからは、個人学習者の参加も増えつつある。

- アゼルバイジャン言語大学日本センター

2013 年より社会人向けの一般コースが開設された。講師はアゼルバイジャン言語大学日本語講座の講師が兼任している。

- 上記のセンター以外にも民間の語学教室である Yapon.AZ が日本語講座を開講しており、10 代から 40 代の日本語や日本文化への関心が高い学習者 60 名ほどが学んでいる。また、日本人を招いたサークル活動も年に数回開いている。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

4-5-2 制。

学習開始年齢は 6 歳または 7 歳。

初等・中等教育機関は、「Orta məktəb（オルタメクトブ）」と呼ばれ、日本の教育制度における小中高一貫校にて 9 年または 11 年（高等教育進学希望者）の教育が行われている。1 年生から 4 年生までの 4 年間が初等部、5 年生から 9 年生までの 5 年間が中等部、10 年生と 11 年生の 2 年間が高等部に当たり、そのうちはじめの 9 年間は義務教育期間。

高等教育機関は、普通大学（4 年）、コレジ（2 年または 3 年）、その他、技術学校、商業学校など。

教育行政

科学教育省が管轄する。

言語事情

公用語はアゼルバイジャン語であり、政府の公的文書などはすべてアゼルバイジャン語で表記が義務付けられている。一方、旧ソ連の構成国であった影響で、ロシア語で授業提供を行う公立の Orta məktəb（オルタメク

テブ)も多く存在するなど、複言語社会である。

外国語教育

すべてのオルタメクテブで、外国語教育は法律により5年生から始められる。主として英語、ドイツ語、フランス語の中から選択必修する。しかし、多くの学校では、實際上、英語教育が2年生から行われている。

ロシア語で教育を行うオルタメクテブでは、1年生からロシア語で教育を行い、アゼルバイジャン語授業は週2回行われる。他方、アゼルバイジャン語で教育を行うオルタメクテブでは、ロシア語の扱いは教育機関により異なり、必修とは限らない。なお、大学では中等教育までロシア語で教育を受けてきた学生向けのロシア語セクターと、主にアゼルバイジャン語で教育を受けてきた学生向けのアゼルバイジャン語セクターの2クラスが各学年に設置されている。

外国語の中での日本語の人気

歴史的背景からロシア語を学ぶ生徒が多いが、近年はトルコ語を学ぶ生徒も増えている。

上記の2言語以外では英語の人気が高い。またフランス語、ドイツ語の民間語学学校でのコースも多くみられる。そのような中、経済、文化などに興味関心を持って、日本語、中国語、韓国語といった東アジア言語を学び始める生徒もいる。日本語については学習できる機関が限られているが、日本ファンサークルやプライベートレッスンで学んでいるケースがある。また、日本語専攻の学生が同じ学科内にある韓国語や中国語を学んでいる場合もある。文化に対する関心は、韓国のK-Popをはじめ、東アジア全域に及ぶ学生も多い。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育は実施されていない。

中等教育

第225番学校	『ひらがな・カタカナ練習帳 かなマスター』アークアカデミー教材作成委員会(専門教育出版)、『こどものにほんごⅠ』西原鈴子監修(スリーエーネットワーク)、『みんなの日本語 初級Ⅰ』スリーエーネットワーク(スリーエーネットワーク)、『BASIC KANJI BOOKⅠ』加納千恵子ほか(凡人社)。
イスマイリ県 1番学校	・『みんなの日本語 初級Ⅰ』スリーエーネットワーク。副教材は、『みんなの日本語 初級で読めるトピック25』牧野昭子ほか(スリーエーネットワーク)、『みんなの日本語 聴解タスク25』牧野

	昭子ほか（スリーエーネットワーク）など
--	---------------------

高等教育

バクー国立大学：	初級	『ひらがな・カタカナ練習帳 かなマスター』（前出）、『みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ』、『Kanji Look and learn』坂野永理ほか（ジャパンタイムズ）。副教材は、『みんなの日本語 初級で読めるトピック 25』、『みんなの日本語 聴解タスク 25』など、適宜初級教材を使用。
	中級	『ニューアプローチ中級日本語[基礎編]』小柳昇（日本語研究社）、『KANJI IN CONTEXT Workbook vol.1』アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（ジャパンタイムズ）。副教材は、適宜中級教材を使用。
	上級	主教材は、『ニューアプローチ中上級日本語[完成編]』小柳昇（日本語研究社）、『KANJI IN CONTEXT Workbook vol.1』（前出）。副教材は、適宜中級・上級教材、または生教材を使用。
アゼルバイジャン言語大学	初級	主教材は、『ひらがな・カタカナ練習帳 かなマスター』（前出）、『みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ』（前出）、『BASIC KANJI BOOKⅠ、Ⅱ』（前出）。副教材は、『みんなの日本語 初級で読めるトピック 25』（前出）、『みんなの日本語 聴解タスク 25』など、適宜初級教材を使用。
	中級	主教材は、『ニューアプローチ中級日本語[基礎編]』（前出）、『KANJI IN CONTEXT Workbook vol.1』（前出）。副教材は、適宜中級教材を使用。

その他教育機関

『みんなの日本語 Ⅰ、Ⅱ』（前出）がよく使用されている。

マルチメディア・コンピューター

中等教育

日本語教育にマルチメディア・コンピューターは使用していない。

高等教育

アゼルバイジャン言語大学では学生が自由に使用できるパソコンがあり、自習用などに使用されている。2017年にはバクー国立大学の、2022年にはアゼルバイジャン言語大学の日本語学科教室が草の根文化無償資金協力

により改装され、ノートパソコン、プリンター、プロジェクターなどが設置された。また教室内でインターネットも使用できるようになった。

その他教育機関

Yapon.az では 初級レベルでは『みんなの日本語初級 1・2』（前出）、『Basic Kanji』（前出）、中級レベルでは『新完全マスター』シリーズ友松悦子（スリーエーネットワーク）、『耳から覚える日本語能力試験』シリーズ 安藤栄里子（アルク）、『増補改訂版・総まとめ』シリーズ 佐々木仁子（アスク）、上級レベルではこれに加えて『日本語の森 JLPT この 1 冊で合格する』シリーズ（日本語の森）を使用している。

5. 教師

資格要件

初等教育

初等教育機関では、学士号取得が望ましいが、大学最終学年から採用が可能。

中等教育

中等教育機関では、学士取得が望ましいが、大学最終学年から採用が可能。

高等教育

大学で教える場合は、基本的に修士号以上の学位が必要とされている。また、修士課程以上の院生であれば、学部授業のための非常勤講師として採用が可能。

その他教育機関

特に規定なし。大学で日本語を専攻した卒業生や、英語教師などが教えているケースが見られる。

日本語教師養成機関（プログラム）

国内において日本語教師養成プログラムは実施されていない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

現職の日本語のネイティブ教師はいない。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修はない。

現職教師研修プログラム（一覧）

特になし。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語能力試験実施のため、2016 年度より『日本語能力試験実施委員会』が設置されている。委員会はバクー国立大学講師、アゼルバイジャン言語大学講師、その他訪日経験者を中心として構成されている。

最新動向

特になし。

[教師会・学会一覧へ](#)

7. 日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

日本語専門家

バクー国立大学 1 名

その他からの派遣

なし

8. シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

9. 評価・試験

評価・試験の種類

2016 年 12 月より日本語能力試験が開始された。大学在学者に限らず、大学の卒業生、独習者なども受験している。受験者数の増加に伴い、2019 年 7 月以降、日本語能力試験の実施回数は年 1 回（12 月）から年 2 回（7 月及び 12 月）に増加された。

10. 日本語教育略史

1995 年

私立アジア大学に日本語学科設立（2000 年度に同学科閉鎖）

2000 年 9 月	バクー国立大学東洋学部アラビア語学科において日本語学科設置
2004 年 9 月	バクー国立大学東洋学部に修士課程が開講
2004 年	バクー国立大学東洋学部アラビア語学科内日本語講座が極東言語学科日本語講座に名称変更 イルヤス・エフェンディフ記念エリタル・ギムナジアで日本語講座（課外科目）開始
2005 年	日本大使館にて日本語会話クラブ開催 （バクー国立大学・バクー日本人会共催）
2007 年 9 月	私立ハザル大学にて日本語授業（選択必修科目）を開始
2009 年 9 月	中等教育機関において日本語正規授業（選択必須科目）開始
2009 年 10 月	アゼルバイジャン国立経済大学にて、課外活動で日本語教育が開始 バクー市内の中等教育機関（エリタル・ギムナジア、テレギ・リセ、第 225 番学校）、で、日本語教育開始
2010 年	ハザル大学での日本語教育が休止
2011 年 9 月	アゼルバイジャン言語大学地域研究・国際関係学部にて、日本語講座開設
2013 年	アゼルバイジャン言語大学日本センターにて、社会人向け一般コース開設 エリタル・ギムナジアの日本語授業が休止 イスマイリ県 1 番学校で日本語教育開始
2014 年	アゼルバイジャン国立経済大学及びテレギ・リセでの日本語授業が休止
2016 年 12 月	日本語能力試験開始
2019 年 7 月	日本語能力試験の実施回数が年 1 回（12 月）から年 2 回（7 月及び 12 月）に増加。